

琉球大学学術リポジトリ

思考過程に注目した批判的思考を高める社会科授業づくり

メタデータ	言語: ja 出版者: 琉球大学大学院教育学研究科 公開日: 2022-05-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鹿野, 誠 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24564/0002017985

思考過程に注目した批判的思考を高める社会科授業づくり

Creating Classes That Enhance Critical Thinking Focusing on Thinking Process

鹿野 誠

Makoto SHIKANO

琉球大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻

1. テーマ設定の理由

批判的思考は、近年、文部科学省（2012）やOECD（2018）でも注目されている。文部科学省（2012）では、「社会構造の変革に対応するための初等教育システム改革」において、「考える力（クリティカルシンキング）」や「コミュニケーション能力」の育成に重点をおくとしている。さらに、OECD（2018）は、獲得した知識は、未知な状況や変転する状況において適用されなければならないとし、そのためには、批判的思考を含む、認知スキルやメタ認知スキルが必要であるとしている。

しばしば、学校現場において生徒たちは周囲の虚偽の情報を鵜呑みにしてしまっていて問題行動を起こすことや、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）で知り得た情報に過度に影響を受けてしまい、差別や偏見（いじめ）につながることも少なくない。楠見（2013）は、現代社会において、批判的思考が必要とされる理由について、「批判的思考と知識によって、リスクに立ち向かい、リスクを減らす適切な行動をし、科学的根拠のない偏見や差別をなくすことが必要である」と述べた。現代の情報化社会の中で、正確な情報が大量にある反面、多くの不正確な情報が存在している。その膨大な情報を吟味することなく、自分が欲しい情報だけを盲信し、誤った判断、望まない結果につながる危険性を常にはらんでいる。また、金井・楠見（2012）は、「働く人が批判的思考態度をもつことは、仕事の経験を省察して、経験から学習する態度を促進する。それは、実践的知識の獲得を通して熟達者になるための土台になっている。」としている。道筋を立てて、繰り返し振り返りながら、目標に向かうことは、あらゆることに応用され、生涯を通じた探求につながると考える。

沖縄県は出生率が高い地域である（厚生労働省 2019）が、一方で、沖縄県の子どもたちは、自己肯定感が低いことで知られている（文部科学省 2021）。鹿野・西本（2021）は、共分散構造分析によって、批判的思考の特定の因子が自尊感情に正の影響を与えていることを示している。よって批判的思考を高める授業、つまり道筋を立てて、繰り返し振り返りながら、目標に向かう授業は、子どもの自己肯定感を高める可能性がある。加えて、沖縄県は、家族の会話も少ないことが示され（文部科学省 2018）、様々な境遇にある生徒に、義務教育である中学校で批判的思考を高める授業を行うことは重要であると考えられる。

生徒たちには、有り余る情報の中でも、様々な社会的事象に対して、自分自身で、時には仲間とともに、吟味しながら、自分の意見をつくりあげる力、自分が生きたいように生きる、生涯を通して幸せを追求するために必要な力を身につけてほしいと思う。そのような能力を家庭ではなく学校で、しかも社会科の授業のなかで形成したいと考える。そのことは確かな、揺るぎない自信にもつながると考える。以上の理由から本研究はテーマを設定した。

2. 研究の目的

本研究は、中学生を対象に批判的思考を高めるべくデザインした社会科の授業を行い、生徒の批判的思考がどのように形成されるのか、思考過程について考察することを目的とする。本研究は、今後の批判的思考の育成に向けた授業づくりの一助となる点で意義があると考えられる。

3. 研究の内容

(1) 批判的思考の定義について

心理学の批判的思考とは「第1に、証拠に基づく論理的で偏りのない思考である。第2に、自分の思考過程を意識的に吟味する省察的（リフレクティブ）で熟慮的思考である。そして、第3に、より良い思考を行うために目標や文脈に応じて実行される目標指向的な思考である（楠見 2013）。」とされている。

一方で、社会科の授業づくりにおける批判的思考とは「知識（情報・解釈・議論・言説）に内在する価値・基準・立場を吟味できる。知識（情報・解釈・議論・言説）の組み立ての論理や提示の方法を吟味できる（加藤 2019）」とされている。

しかし、先行研究により「批判的思考教育には、多少共通点らしきものがありそうではあるが、はっきりとしたものは、現時点では存在しないということであり、批判的思考教育には実に様々なものが混在している（道田 2020）」ことが指摘されている。以上より本研究では、楠見（2013）が定義した批判的思考の概念を最終的な目標としながら、生徒の現状を出発点として本研究で用いる批判的思考の概念を再定義した（Figure 1 参照）。そして、目指す生徒の姿を『既存の知識をもとに評価判断の基準を、偏りのない多面的多角的な知識の取得によって常に再構築し続けようとする態度・見方・考え方』を持つ生徒とした。

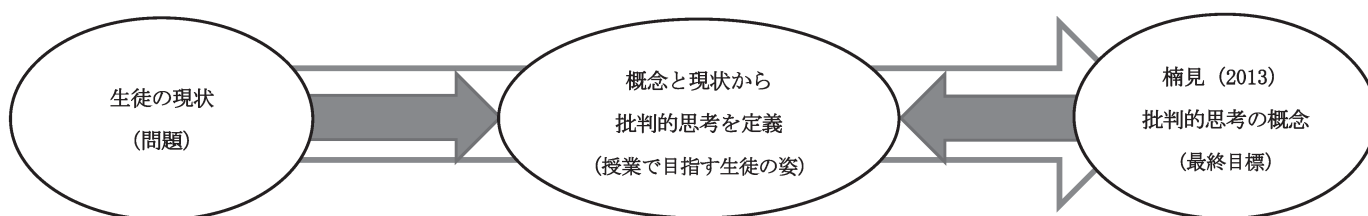


Figure 1 批判的思考再定義のイメージ図

(2) 授業づくりの方向性

加藤（2019）は、「社会的判断力育成の歴史授業構成においては、複数の評価判断の選択肢があり得る『歴史的論争問題』とその争点を形成する歴史的事実解釈に基づいて内容を構成すること。また、歴史的事象に対する評価判断は、常に事後的なものになることの理解をふまえ、授業過程は、論争のある歴史的事象に対する評価判断を求める『議論』（『主張（評価・判断）』『根拠（理由付け）』『（根拠を支える）事実』が基本的な構成要素）の過程に、生徒同士が自分たちの評価判断の基準を対象化し吟味する過程を意図的に組み込み、生徒たちが、自らの評価判断（社会的判断）とその基準の吟味（批判的思考）を相互に行うことができるように組織することが必要」と述べている。

つまり、第一にテーマ設定が重要である。加藤（2019）はテーマ設定を「歴史的論争問題」に限定しているが、無着成恭（1951）の「山びこ学校」が示すように、生徒の生活から発見された共通の問題の解決に向けた評価判断の基準の吟味によってもなされると考える。重要なことは、複数の意見が多様に生まれるようなテーマ設定である。このことは歴史の分野に限らず、地理の分野にも同様に言えることであると考える。第二に生徒個人が各々基準・根拠（事実）をもとに評価判断を下すことが重要である。そのため、多面的・多角的な知識の提示、教材、資料の工夫が必要である。第三に基準の吟味を繰り返し行わせることが重要である。生徒が各授業の内容、自分の過程を振り返ることができる板書、ワークシートの工夫、生徒が判断を下す際には、授業の記録を活用できるよう工夫する必要がある。第四に活発に議論が行われるような安心感・信頼感が重要である。そのため、他者の意見を受容・肯定、日頃の生徒への声かけ、積極的に褒めることを通して、授業者が安心感・信頼感を築く働きかけに努める必要がある。佐藤（2014）が「安心感と同時に、他者と対話するという活動そのものに『信頼感』を感じていることも大切です。そ

課題研究最終報告

これは例えば、『他の人の話を聞くと、いいことがあるぞ』『自分一人よりも、相談しながら進めた方が、良い結果が得られそうだ』『ちょっと不十分な考えだけど、発表すれば、他の人が助けて一緒に練り上げてくれる』…こういう気持ちです。」と指摘している。批判的思考が相手の発言に耳を傾け、証拠や論理、感情を的確に解釈すること、自分の考えに誤りや偏りがないかを振り返ることを大切にしている(楠見 2013)以上、先生と生徒の信頼感、生徒間の信頼感の構築を行うことが必要である。以上4つの視点を意識して授業づくりを行った (Table 1 参照)。

Table 1 授業の一例と授業者の工夫「特定の輸出品の頼るアフリカの経済」

	内容・ねらい	学習活動	授業工夫
導入 ① 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・出席確認を行う。 ・前時の授業のまとめを紹介する。 ・前回の授業で少し触れたが、アフリカ州では植民地時代に南アメリカから持ち込まれたカカオ豆を輸出用に栽培していることを説明する。 ・カカオ豆の生産国を一緒に確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の授業の振り返りを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>これは何か分かりますか？ (タンザニア産カカオ豆)</p> </div> <p>→周りの人と話し合い、何人かの生徒に回答してもらう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 前時の振り返りとして、前時の授業で生徒が記述したまとめを授業冒頭で紹介する。→生徒の言葉で前時の授業の振り返りを行うことで、スムーズに復習でき、本時の学習に活かすことができる。 ➢ 導入は生徒の興味関心を引くため、生徒の生活に近いものを実際に持ってくる。
展開 ① 10分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>学習目標 アフリカの経済について考えよう！</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・カカオ豆の生産農家の話を紹介し、生産者であるアフリカの人々がチョコレートを食べたことがない理由について読み取らせる。 ・前時に鉱山資源についても触れたが、鉱山資源にはどのようなものがあったかを確認する。 ・金、ダイヤモンド、レアメタルに加えて、原油、天然ガスなどもあることを説明する。 ・アフリカの国々と、日本の主な輸出品のグラフを比較して、輸出額の違い、輸出品の違いに気づかせる。 ・モノカルチャー経済の説明を行う。 ・生徒の意見をもとに解説、補足、読み取ったことから、どのようなことが言えるのかを確認する。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>なぜ生産者であるアフリカの人々はチョコレートを食べたことがないのだろう？</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>金やダイヤモンド、レアメタルなど、高そうなものがたくさん取れるのにチョコレートは食べれないの？</p> </div> <p>→周りの人と話し合い、何人かの生徒に回答してもらう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>アフリカの国々の輸出品と日本の輸出品のグラフを比較してどう？</p> </div> <p>→周りの人と話し合い、何人かの生徒に回答してもらう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>●生徒との安心感・信頼感構築のため休み時間、特に昼休みは、時間の許す限り教室に顔を出すように心がけた。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 授業の内容がイメージできるような効果的な写真や映像資料を活用する。 ➢ ICT (ロイロノート) を活用して、グラフや資料を直接生徒が操作できるようにする。 ➢ 生徒の持つ感覚(生活経験)を活かすことができるように比較(沖縄県との比較)をうまく活用して授業展開を考える。 ➢ 思考力を働かせながら知識の獲得ができるよう思考の流れを意識した発問の設定を行う。 ➢ 発問や課題の難易度が適切であるかを十分に検討する。 ➢ 一目で授業内容を振り返ることができる板書計画を行う。
展開 ② 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ここまでの学習を通して、アフリカの経済をよりよくするための方法について考えたことをグループで共有する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>●いい意見や面白い考えがあったら積極的に自分の意見に取り入れるように促した。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>アフリカの経済をよりよくするためにどうすればいい？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で考えてもらう。 ・グループで意見の共有を行う。 ・共有した意見を発表してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ <u>複数の意見が多様に生まれるようなテーマ設定を行う。</u> ➢ グループでの意見共有の前に、しっかりと個人で考える時間をとる。 ➢ <u>グループでの意見共有で、自分の意見の基準の吟味をする時間を与える。</u>
まとめ 15分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>発問 アフリカの経済をよりよくするためにどうすればいい？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を通して獲得した知識を用いて、アフリカの経済をよくするための方法について他者の意見を踏まえて、自分の意見を構成するように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ここまでの学習を通して、発問に対して、<u>個人で回答する。</u> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>●前時の自分の意見を振り返るよう前時授業プリントは授業までに返却</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ これまでの学習で獲得した知識を活用して、自分の言葉で説明するように促す。 ➢ <u>グループでの意見共有で得た新たな基準と自分の意見の基準を吟味して、現時点での自分の意見を再構築する。</u> ➢ タイムマネジメントをしっかりと行い、十分に記述する時間を設ける。

*図の二重線部分は、授業づくりの4つの視点

4. 研究の対象と方法

沖縄県内の公立中学校2校（A校，B校）を対象に，2021年2月にA校の1年生2クラス計66名（男子34名，女子32名）に歴史分野，2021年9月にB校の1年生2クラス計66名（男子33名，女子33名）に地理分野において批判的思考を高めるべく作成された授業を行い，生徒のワークシート，質問紙調査の結果，授業記録より，生徒の批判的思考がどのように形成されるのか，批判的思考の発達における生徒の思考過程について考察した。

5. 研究の実際

（1）歴史分野 単元名 『大航海時代によって結びつく世界』

授業では『大航海時代に日本にスペインやポルトガル人がやってきたら，どうなる？』という問いに対して，「私は悪いことが起きるとおもいます。（中略）日本が戦争に負けて日本人はどれいにされて日本人にとっては最悪な時代だけど，スペインやポルトガル人にとってはいい時代になったと思います。（aさん）」と南蛮人に対してネガティブな回答していた生徒が，次の授業では「私は南蛮貿易は『どちらでもない』と思います。」と回答し，その理由を「当時の日本にはまだ無かった鉄砲などの強い武器が伝わってきてまたさらに日本は強くなったと思うけど，奴隷になったり，鉄砲など，南蛮貿易で伝わった新たな武器を使って争いが起きそうで，いいことも悪いことも両方あるから。（aさん）」としていた。グループ活動によって共有した意見を自分の意見に取り入れて再構築している様子が窺えた。生徒たちが授業の中で，新しく得た知識をもとに判断の基準を吟味し，授業ごとに自分の意見を再構築している過程がワークシートから見てとれた。また，授業では前時の意見を活用して意見を構成しようとする姿がより見られ，習った語句を，根拠を用いて説得力のある文章を書くように心がけている様子が窺えた（Table 2 参照）。

Table 2 『大航海時代によって結びつく世界』生徒 a のワークシートの一例と筆者分析

授業のねらい	生徒 a (■組)	筆者分析
第1時「イスラムの拡大とヨーロッパ」 ①中世ヨーロッパの変化について理解する ②中世ヨーロッパの変化についてまとめることができる。 ③中世ヨーロッパの変化について学習して，学習した内容を踏まえて，宗教改革後のヨーロッパの動きを予測することができる。	発問 中世ヨーロッパの変化について学習して，学習した内容を踏まえて，これからのヨーロッパの人々はどのような動きをすると予想できますか？ ↓ グループさんの意見のようにプロテスタントとカトリックとで争いが起こりそう！「プロテスタント」がでてきて，「カトリック」にいた人々が少なくなつたため，日本にも「カトリック」を伝えた。	他者意見の取り入れが行われている 根拠に基づいた説明がなされている
第2時「大航海時代の幕開け」 ①大航海時代について理解する。 ②大航海時代の内容についてまとめることができる。 ③大航海時代に，日本にポルトガルやスペイン人などの南蛮人が来ることで，予想されることを自分の言葉でまとめ，表現することができる。	発問 大航海時代に，日本にポルトガルやスペイン人が来ることで，どのようなことが起こると予想されますか？ 私は悪いことが起きるとおもいます。その悪いことは，かつてに植民地にされたり宗教を強制されたりして元々日本に住んでいた人たちが反発して争いが起こったりすることで，もし本当に争いをしたなら，死者が多くでそうだなと思いましたが，そして日本が戦争に負けて日本人はどれいにされて日本人にとっては最悪な時代だけど，スペインやポルトガル人にとってはいい時代になったと思います。	文章量が増加している 根拠に基づいた説明がなされている
第3時「東アジアの貿易と南蛮人」 ①南蛮貿易について理解する。 ②南蛮貿易の内容についてまとめることができる。 ③大航海時代に，日本にポルトガルやスペイン人などの南蛮人が来ることで，予想されることを自分の言葉でまとめ，表現することができる。	発問 日本に南蛮人がやってきて，南蛮貿易を行ったことは日本にとって良いことであったか？よくないことであったか？ 私は南蛮貿易は「どちらでもない」と思います。なぜなら，南蛮貿易では当時の日本にはまだ無かった鉄砲などの強い武器が伝わってきてまたさらに日本は強くなったと思うけど，奴隷になったり，鉄砲など，南蛮貿易で伝わった新たな武器を使って争いが起きそうで，いいことも悪いことも両方あるから。	基準の吟味・授業ごとに意見を再構築している 評価判断を下している
生徒の感想	私は二週間，まこと先生の授業を受けて，自分は苦手な教科の1つに社会かがあつて，特に歴史は誰が何をしたかが頭に入ってこなかったりするけど先生の授業はとても分かりやすく気がつけばチャイムがなっているくらい楽しかった。	導入や資料の工夫による『楽しく分かる』授業

(2) 地理分野 単元名 『アフリカ州』

授業では、第1時に空間的な視点として「アフリカ州の自然環境」について扱い、第2時に時間的な視点として「アフリカの歴史と文化」、第3時、第4時では相互作用として「特定の輸出品に頼るアフリカの経済」、「アフリカが抱える課題とその取り組み」について扱った。第1時ではアフリカについて「アフリカと言う場所は、気候が3つあり、それぞれの地域によって動物がいたり、砂漠があつたりする事が分かった。またアフリカ州にはナイル川、サハラ砂漠など世界最長の川がある事を知った。気候によってサバナがある所もある。またサヘルと言う所があり、その所では、人口増加、放牧で砂漠になった地域がある。(bさん)」と記述していた生徒が第4時では「アフリカと言うところは、世界最大の川「ナイル川」など世界最大の川や、砂漠がある。また3つの気候があつてその地域に合わせて生活が変わる(文化も)、昔アフリカは、ヨーロッパ州に植民ちにして、その時に生活などが変わった。植民ちが終わってから新たな問題がでた。経済問題、貧困問題などがでて生活できない人々が増えてきている。私はそんな人達をどうやってすくっているかきになりました。またその人達がやっている事も私もできたらやりたいです。(bさん)」と様々な視点や考え方を吟味し、自分の意見を再構築した様子が窺える。最後の感想からは、意見共有の意義を理解し始め、意識的に吟味や再構築を通して自分の意見をかたちづくることの良さを自覚したようにも感じる (Table 3参照)。

Table 3 『アフリカ州』生徒bのワークシートの一例と筆者分析

授業のねらい	生徒b (Δ組)	筆者分析
<p>第1時「アフリカ州の自然環境」</p> <p>①地図上のナイル川、サハラ砂漠の位置が分かる。 ②アフリカ州の気候の特色を自分の言葉で説明することができる。</p>	<p>発問 アフリカ州ってどんなところ？</p> <p>アフリカと言う場所は、気候が3つあり、それぞれの地域によって動物がいたり、砂漠があつたりする事が分かった。またアフリカ州にはナイル川、サハラ砂漠など世界最長の川がある事を知った。気候によってサバナがある所もある。またサヘルと言う所があり、その所では、人口増加、放牧で砂漠になった地域がある。</p>	<p>基準の吟味 授業ごとに意見 を再構築し ている</p> <p>根拠に 基づいた 説明が なされて いる</p> <p>基準の吟味・授業ごと に再構築している</p> <p>根拠に 基づいた説明が なされている</p> <p>評価判断を下す</p> <p>意見共有の意義を理解し 始め、吟味や再構築を 通して自分の意見を 形作ることの良さを自覚</p>
<p>第2時「アフリカの歴史と文化」</p> <p>①アフリカ州がどのような歴史をたどってきたかを理解する。 ②アフリカ州では、植民地支配が文化にどのような影響を与えたのかを自分の言葉で説明できる。</p>	<p>発問 植民地支配は文化にどのような影響を与えたと思う？</p> <p>アフリカは、ヨーロッパに植民地支配されてから、差別など、多様な文化が生まれてきた。その結果(生活が大変になる。困る。新しい言語を作らないといけなくなる)でもヨーロッパから植民地支配がはいほうされたけど、経済、政治などをヨーロッパにうばわれていたから経済などでまた戦争が起こったり、他の国からねらわれてしまったりするから、アフリカもヨーロッパと同じく団結して、アフリカ連合(AU)をつくった。</p>	
<p>第3時「特定の輸出品に頼るアフリカの経済」①</p> <p>アフリカの経済の特徴、課題を理解する。②アフリカの経済の課題について、課題解決の方法を自分の言葉で説明できる</p>	<p>発問 アフリカの経済をよりよくするためにどうすればいい？</p> <p>アフリカの経済をよくするためには、他国の技術を取り入れてカカオ豆の加工などをしていく、銅や原油をなにかと合わせて新しい輸入物をどんどん増やしていく事が大切だと思う。</p>	
<p>第4時「アフリカが抱える課題とその取り組み」</p> <p>①アフリカ州の抱える課題について理解する。 ②アフリカ州という地域が抱える課題に対する取り組みを考えことができる。 ③アフリカ州という地域がどのような地域かを自分の言葉で説明することができる。</p>	<p>発問 アフリカってどんなところ？もっとどんなことを知りたい？</p> <p>アフリカと言うところは、世界最大の川「ナイル川」など世界最大の川や、砂漠がある。また3つの気候があつてその地域に合わせて生活が変わる(文化も)、昔アフリカは、ヨーロッパ州に植民ちにして、その時に生活などが変わった。植民ちが終わってから新たな問題がでた。経済問題、貧困問題などがでて生活できない人々が増えてきている。私はそんな人達をどうやってすくっているかきになりました。またその人達がやっている事も私もできたらやりたいです。</p>	
<p>生徒の感想</p>	<p>グループなどで意見をなどをまとめ、発表するのは良いと思いました。自分なりに最後までとめるの良かったと思います。理由は自分の考えでまとめられたら、他の教科などでもいさせるし、自分のでまとめたやつは、よく覚えらるから、その考えは、いいなと思いました。自分の意見をいっぱい考えられた。</p>	

6. 質問紙調査について

(1) 質問紙と調査の方法

質問紙は、一つ目に批判的思考態度尺度(平山・楠見 2004)を前田・新見・加藤・梅津(2010)が文言を中学生に適した文言に変更した中学生用批判的思考態度尺度を採用した。先行研究(平山・楠見 2004)に従い、5件法で回答を求めた。また、中学生への負担を考慮し、「証拠の重視(3項目)」因子は、先行研究(前田・新見・加藤・梅津 2010)の項目をそのまま採用し、「論理的思考への自覚」因子、「探求心」因子、「客観性」因子は、批判的思考態度尺(平山・楠見 2004)において、各因子の因子負荷量が多い5項目を抽出し、全18項目を採用した。二つ目にRosenbergの自尊感情尺度日本語版(櫻井 1997)を先行研究(加藤・太田・松下・三井 2013)に従い、5件法で回答を求めた。本研究で自尊感情を測定する理由として、先行研究(加藤・太田・松下・三井 2013)において、批判的思考と自尊感情との間に共時的に正の相関があることも示されていることがあり、批判的思考を高めるべくデザインした授業の実践が自尊感情にどのような影響を与えているのかについても考察した。今回の標本数で、因子分析をすることは適切ではないと判断し、先行研究(平山・楠見 2004)によって示された因子の因子を構成する項目の合計得点を用いて行った(2021年10月実施)。

(2) 2021年2月にA校の1年生66名(男子34名,女子32名)に歴史分野

各項目の授業前と授業後の得点で対応のある t 検定を行った。結果は、批判的思考態度尺度では「複雑な問題について、順序立てて考えることが得意だ」、「何事も、疑わずに信じ込みだりしない」の2項目($p < .05$)、「ある一つの立場だけではなく、できるだけ多くの立場から考えようとする」、「みんなが納得できるように説明することができる」、「物事をみる時、自分の立場にこだわってしまう(本来は反転項目)」の3項目

($p < .01$)の得点が高まったことが示された。自尊感情尺度の各項目の得点には有意な差は見られなかった。次に、因子を構成する項目の合計得点の分析においては、批判的思考態度尺度では「論理的思考への自覚」得点($p < .05$)のみ高まっていることが示された(Figure 2参照)。自尊感情尺度では、「自尊感情」得点に有意な差は見られなかった。

「論理的思考への自覚」得点が高まったことについて、先行研究(平山・楠見 2004)では、批判的思考態度尺度の「論理的思考への自覚」因子は「複雑な問題について、順序立てて考える事が得意だ」といった項目によって構成されており、グループ活動を通して意見の交流・共有を行ったことで自信ついた可能性が考えられる。多くの生徒が感想の中で「(前略)グループの意見の交流で他の人の考えや意見にふれる事ができた(後略)」のように、グループでの意見交流・共有ができてよかったと記述してくれた(30名)。また、「(前略)いいね!やgood!など言ってくれたりするのは、やる気が上がるし、モチベーションが上がるのでいいなと思いました(後略)」など声かけがよかったと記述してくれた生徒もおり(13名)、そのことが「論理的思考への自覚」得点の高まりにつながった可能性が考えられる。さらに、「普段の授業は、板書を写していたので、プリントでやっていいなと思いました。電子テレビを使ってわからないところを教えてくれるのでわからないというのがありませんでした。毎回の授業始めにする、前回の振り返りでは、自分とは違って意見がたくさんあったので、他の視点から物を見る事ができたので楽しかったです(後略)」のように大きく分けて、ワークシート(26名)、資料(14名)、電子黒板(9名)、前回の振り返り(7名)が良かったという感想があった。わかりやすい授業、そして声かけにより信頼関係ができたからこそ、話し合いが活発になり、得点の高まりに繋がったと考えられる。

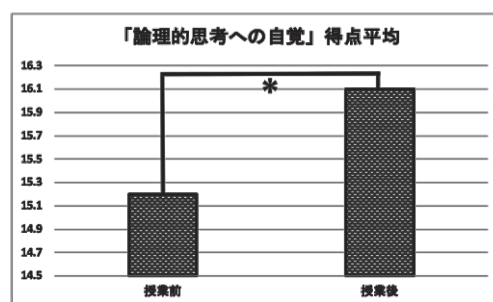


Figure 2

「論理的思考への自覚」得点平均

(1) 2021年9月にB校の1年生66名(男子33名, 女子33名)に地理分野

各項目の授業前と授業後の得点で対応のある t 検定を行った。結果は、批判的思考態度尺度では、1年☆組で「無意識のうちに偏った見方をしていないか振り返るようにしている」

(Figure 3参照)の1項目 ($p < .05$)が高まったことが示された。自尊感情尺度では、同じく1年☆組で「自分はダメな人間だと思う。(逆転項目)」(Figure 4参照)の1項目

($p < .05$)が高まったことが示された。同じ授業を行った1年△組では各項目の得点に有意な差は見られなかった。また本実習においては、批判的思考態度尺度の各因子の合計得点、自尊感情尺の因子の合計得点に有意な差は見られなかった。

「無意識のうちに偏った見方をしていないか振り返るようにしている」という項目の得点が高まったことについて、生徒たちの感想を見てみると「グループの意見をきくと、自分では、わからなかったこととかもあってよかった(△組)」のように、グループでの意見共有が良かった(35名)と感想に記述した生徒が多くおり、授業を通して意見共有の意義を感じ始めたと考えられる。実際にワークシートを見てみると『自分が年収の高い国の住人なら、EUに加盟することに賛成? 反対?』という発問に対して、個人の段階では「移民労働者が安い給料で働くと、国民の給料がもらえなくてお金がなくなる。パスポートなしで他の国に行けるのは良いし、色々な国で協力して飛行機などを作れるのは良いけど、EUじゃなくてもできると思った。」と反対の意見を示していた生徒が、グループでの意見共有後は「賛成派の『アメリカとか大国に反こう? するためにEUができた。』という意見をきいて、なるほどなと思った。確かに移民労働者にお金をとられるけど、EUに加入することで世界の中での発言力が高まるし、共通の通過を使うことによって国民の生活が豊かになるとおもった。」と賛成の意見を示すように変化があった(△組)。生徒たちは個人の意見を、他者の意見を受けて吟味し、再構築している様子が窺えた。意識的に吟味し、再構築しようとする態度が芽生えた結果が得点の高まりにつながったと考えられる。短期間で有意な差を見出すことができたことで、長期的な実践でより成果をあげられる可能性も考えられる。

「自分はダメな人間だと思う。(逆転項目)」という項目の得点が高まったことについて、この項目は逆転項目であるため、つまるところ、「自分がダメな人間であるとは思わない。」という項目の得点が高まったことについて、生徒たちの感想を見てみると「1回1回自分の意見をまとめたときに誰にでもほめてくれたりどう考えればいいのかなど教えてくれて考えるのが楽しくなっていた(△組)」に代表されるように授業者が生徒を積極的に褒めたことが、得点の高まりにつながったと考えられる。さらに、「クロムブックでたくさん資料や写真を見せてくれて、とても分かりやすかったです(☆組)」のように「分かりやすい」、「楽しい」、「おもしろい」、「理解しやすい」と記述した生徒も多かった(45名)。導入、資料提示、発問の工夫によって、生徒にとって『楽しく分かる』授業であったことが得点の高まりにつながったと考えられる。加えて、生徒がグループでの意見共有の意義を感じ始めたことによって、他者の意見をもとにしてなら自分の意見を構築できること、また自分の意見は他の人の役に立っていること、自分の意見に自信が持てるようになったことが得点の高まりにつながったと考えられる。

☆組で有意な差が見られ、△組で見られなかった理由として、△組では「グループのとき意見を言えな

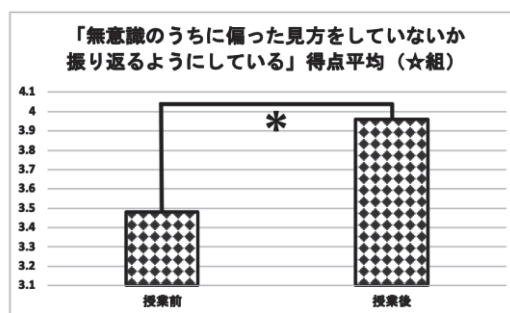


Figure 3

「無意識のうちに偏った見方をしていないか振り返るようにしている」得点平均(☆組)

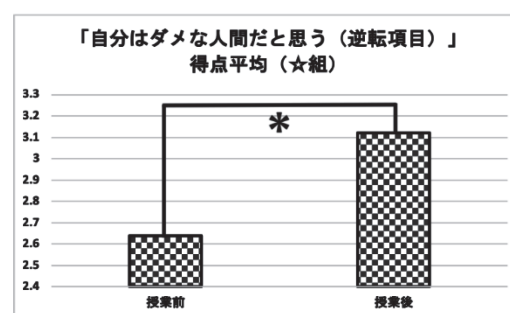


Figure 4

「自分はダメな人間だと思う(逆転項目)」得点平均(☆組)

かった(△組)」と記述した生徒がおり、このことが代表するように、発言を躊躇ったり、正しいことを言わなければならない雰囲気があった。誰もが安心して発言できる環境づくりが必要であると思われた。

7. まとめ

本研究は、『既存の知識をもとに評価判断の基準を、偏りのない多面的多角的な知識の取得によって常に再構築し続けようとする態度・見方・考え方』を育成することを目指し、第一にテーマ設定、第二に生徒個人が各々基準・根拠(事実)をもとに評価判断を下すこと、第三に基準の吟味を繰り返し行わせること、第四に活発に議論が行われるような安心感・信頼感を築くことを意識した授業づくりを行った。本研究においては、生徒のワークシートの記述、感想、質問紙調査の結果から、長期的な授業実践によってより批判的思考を高めることができる可能性が示された。さらに限定的ではあるが、実践の結果、自尊感情の高まりも示された。よって本研究においては、批判的思考を高める授業実践は自尊感情をも高める可能性が示され、因果関係については今後さらなる研究が必要であると思われる。

一方で、批判的思考を高めるためには、佐藤(2014)が指摘するように教師と生徒、または生徒間の安心感・信頼感が必要不可欠である。今後は学校を通してどのように安心感・信頼感の構築することができるのかの検討が必要であると感じた。また、佐藤(2014)はテストのあり方についても指摘しており、日頃の授業で『考える』ことを強調していても、テストがそれに反するものなら、児童生徒はテストに合わせた勉強方法を選んでしまうことが容易に想像される。考えさせるためには、考えたことを適切に評価する方法が必要であり、その方法の検討が今後の課題である。

【引用文献】

- 平山るみ・楠見孝, 2004, 「批判的思考態度が結論導出プロセスに及ぼす影響—証拠評価と結論生成課題を用いての検討—」『教育心理学研究』52: 186-198.
- 金井壽宏・楠見孝(編), 2012, 『実践知:エキス パートの知性』有斐閣.
- 加藤弘通・太田正義・松下真実子・三井由里, 2013, 「中学生の自尊心を低下させる要因についての研究—批判的思考の発達との関連から—」『静岡大学教育学部研究報告(人文・社会・自然科学篇)』63: 135-143.
- 加藤寿朗, 2019, 「子どもの発達データを用いて論理実証アプローチを再構築する試み—中学生の批判的思考力の発達を促進する歴史授業デザインを通して—」梅津正美編, 2019, 『協働・対話による社会科授業の創造』東信堂, 200-227.
- 楠見孝, 2013, 「良き市民のための批判的思考」『心理学ワールド』61: 5-8.
- 前田健一・新見直子・加藤寿朗・梅津正美, 2010, 「中学生の批判的思考力と社会的事象に対する関心・意欲および社会態度」『広島大学心理学研究』10: 89-100.
- 道田泰司, 2020, 「批判的思考力育成教育を構想するために」『琉球大学大学院教育学研究科 高度教職実践専攻(教職大学院)紀要』4: 1-10.
- 文部科学省, 2012, 「社会の期待に応える教育改革の推進」『国家戦略会議関係資料』.
- 無着成恭, 1951, 『山びこ学校』青銅社.
- OECD, 2018, *THE FUTURE OF EDUCATION AND SKILLS Education 2030 -THE FUTURE WE WANT-*.
- 櫻井 茂男, 1997, 『現代に生きる若者たちの心理—嗜癖・性格・動機づけ—』風間書房.
- 佐藤浩一, 2014, 『学習支援のツボ—認知心理学者が教室で考えたこと—』北大路書房.
- 鹿野誠・西本裕輝, 2021, 「沖縄県の中学生におけるアタッチメント・スタイルによる批判的思考発達の差異の検討 : 山形県の中学生との比較を通して」『琉球大学大学院教育学研究科 高度教職実践専攻(教職大学院)紀要』5: 27-37.